

| 平成20年度第2回横浜市次世代育成支援行動計画推進協議会会議録   |   |
|---|---|
| 日 時   | 平成20年9月29日（月）14時～16時  |
| 開催場所  | 横浜関内ビル5階会議室   |
| 出席者   | 井上美穂委員、岩倉憲男委員、岩永牧人委員、岩本真美委員、奥山千鶴子委員、杉浦尚子委員、高橋勝委員、土山由巳委員、菱川広昭委員、藤川祥子委員、八木下明委員、渡辺久子委員、河本繁泉区福祉保健センター担当部長（藤田譲治委員代理）、屋代昭治委員、丸山修由教育次長（田村幸久委員代理） |
| 欠席者   | 伊志嶺美津子委員、岩室紳也委員、小林千恵子委員、保坂シゲリ委員、渡辺英則委員、上野和夫委員   |
| 開催形態  | 公開（傍聴者2人）   |
| 議 題   | 後期計画策定にかかるニーズ調査について   |
| 決定事項  | ・ 後期計画策定にかかるニーズ調査の調査票について、協議をふまえ一部修正のう え決定する。   |
| <p>議事</p> <p>（事務局）後期計画策定に係るニーズ調査の概要について説明した後、事前送付資料からの変更点を中心に、調査票について説明。</p> <p>（井上委員）調査に協力いただく方に、調査の目的や結果の公表、活用方法についてお知らせするような文章は追加される予定ですか。</p> <p>（事務局）調査への協力依頼と調査の目的や結果の公表、活用方法について記載した文章を同封します。</p> <p>（奥山委員）「よこはま一人子育てフォーラム」という乳幼児から小学生のお子さんを持つグループの中で調査票について意見交換をしました。主な点を紹介します。</p> <p>（未就学児保護者）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 育児のあいだにアンケートに答えるのは大変なので、設問数やわかりやすい表現などについて配慮が必要</li> <li>・ 子育てについての悩みの選択肢に、「子育て中の親同士の関係」を入れたらどうか</li> <li>・ 虐待に関する質問が唐突なので、表現を工夫する、設問の順番を工夫するなどが必要</li> <li>・ 地域子育て支援拠点、つどいの広場、プレイパークなど、実施か所が少なく知らない人も多いので施設一覧を入れてはどうか。利用している人も施設名では認識しているが、事業名ではわからないのではないか</li> </ul> <p>（小学生保護者）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「テレビゲーム」という選択肢があるが、テレビよりも通信とか携帯型のゲームのほうが多いので、「ゲーム」という言い方はわかりにくい</li> <li>・ 放課後児童施策の利用時間を「何時まで」と聞いているが、「何時何分まで」を入れたほうが答えやすい</li> <li>・ 携帯電話やインターネットについて、低学年には難しい質問が多い。フィルタリングなどは本人に聞いてもわからないのではないか</li> </ul> <p>（岩永委員）小学生基本調査で学校以外での勉強について聞いていますが、学校の勉強については他の調査で聞いているのですか。また、中高生基本調査では学習については聞かないのですか。もう1点、中高生基本調査の「あなたはどんな仕事につきたいですか」という質問の選択肢は、何を参考に作成されましたか。また、将来の仕事が決まっているかどうかを聞く質問があってもよいと思います。</p> <p>（丸山教育次長）教育委員会では今年3月に横浜市教育意識調査報告書をまとめており、その中で学校に行くのが楽しいか、学習理解度をどのくらい自覚しているのかなどの調査を行っています。</p> <p>（事務局）仕事の選択肢は文部科学省のアンケート調査を参考に作成しましたが、もう少し検討したいと思います。</p> <p>（高橋会長）例えば公務員と銀行員が同じ事務職に入っている点、情報産業などの新たな職種が含まれていない点などは検討をお願いしたいと思います。</p> |   |

(藤川委員) 質問数が多いので、答えるのに何分くらいかかるかを書いておくと協力していただきやすいと思います。保護者向け調査の中で、親の就労についてフルタイムかパートタイム・アルバイトかを聞いている設問がありますが、このフルタイムというのは正社員、正規職員を指しているのでしょうか。非正規職員でも午前9～午後5時まで週5日間働いている場合もありわかりにくいです。

次に、市民意識調査の中で、男性に「現在の勤め先は、育児休暇の制度は使いやすい雰囲気ですか」と聞いていますが、女性にも聞いたほうがよいと思います。

(事務局) フルタイムかパートタイム・アルバイトかについては、保育サービスの利用状況や利用意向とクロス分析を考えておきまして、正規・非正規といった雇用形態ではなく、就労時間で回答いただきたいと考えています。説明を補足したいと思います。育児休業については、女性にも聞くこととします。

(高橋会長) 小学生基本調査は郵送配布とのことですが、学校を通じて実施しないのはなぜですか。

(事務局) 前期計画ニーズ調査では1区1校ずつに協力いただきましたが、放課後施策が小学校によってさまざまですので、今回は無作為抽出した対象者に郵送配布といたしました。

(菱川委員) 最近、保護者の方が発達障害やアレルギーへの対応に大変な時間を取られていると感じています。発達障害やアレルギーへの不安について、どこかに追加できないでしょうか。

また、小学生、中高校生基本調査について、携帯電話やインターネットについての質問がありますが、読書についても聞いてみたいと思います。

(土山委員) 発達障害については、私どもでも電話相談をされていて同じように感じています。「発達の気がかり」などの表現で聞いてはいかがでしょうか。

(事務局) 未就学児保護者の調査の中に、「子育てについて感じている悩みはありますか」という設問がありますが、発達障害についてはここに選択肢を追加したいと思います。アレルギーについては「子どもの健康」という選択肢がありますので、ここで対応したいと思います。

(丸山教育次長) 読書については、先ほどご紹介した教育委員会が実施した調査の中で聞いています。

(杉浦委員) 小学生基本調査で、悩みを相談する相手や将来の夢について自由記載となっていますが、低学年の子どもには難しく、また集計もしにくいと思います。

次に、「近所の大人とあいさつをするか、会話をするか」という設問で、「何人くらいか」を聞いていますが、何を話すかを聞いたほうがよいと思います。

(事務局) 自由記載の部分は、選択肢を設けて選ぶような設問に修正します。

(高橋会長) 夢については、選択肢を設けず自由記載とした方が子どもの自由な回答が引き出され、現状が把握できると思います。会話については、子どもにとっての大人というのは、親と学校の先生、塾の先生くらいかと思いますので、会話の中身にも関心はありますが、そもそも会話をするのかということに関心があります。人数はぜひ聞いてみたいと思います。

(藤川委員) 「あいさつ」と「会話」の違いがわかりにくいので、「近所に何人知り合いの大人がいますか」など簡単に数えられるほうがよいと思います。

(岩本委員) 保護者向け調査の中で、親子の居場所や放課後施策など様々なサービス名が出てきますので、それらの説明や具体的な利用方法があると、よいPRの機会となると思います。

市民意識調査については、対象が広く学生なども含まれるので、世帯収入の設問に「わからない」を追加したほうがよいと思います。

次に「理想の職業」についての設問で、選択肢の中に「世間からもてはやされる職業」「お金がもうかる職業」「人を助けたり、世の中に奉仕する職業」など、調査者の価値観が含まれるような表現があるので、修正したほうがよいと思います。

次に、中高校生基本調査について、「あなたは、家族と話をしますか」という設問がありますが、誰と話すのかという選択肢も設けてはいかがでしょうか。

(岩倉委員) 小学生は保護者と本人に同時に発送されるとのことですが、2つの調査票に同じ質問が見受けられること、またその表現に若干違う点があるので、そろえたほうがよいと思います。また、放課後キッズクラブと放課後児童クラブの2つを利用している人は、どちらも答えるのでしょうか。

(事務局) 2つ利用している人には、両方ご記入いただくように考えています。

(丸山教育次長) 小学生、中高校生基本調査について、朝食と夕食、就寝を聞いていますが、起床について聞かないのはなぜですか。

次に、小学生保護者の調査と中高校生基本調査で、塾や習い事について聞いていますが、現在自宅で行なう有料の通信制の講座が様々ありますので、選択肢に追加したほうがよいと思います。

(高橋会長) 対象が学校へ通っている子どもたちなので、起床時刻については、あまり幅がないように思います。

(井上委員) 「その他」という選択肢が多く見受けられますが、ここの自由記載は集計に反映されるのでしょうか。

(事務局) 「その他」の記載は全て集計したうえで、ある程度分類してまとめることになると考えています。

(渡邊久子委員) 小学生基本調査は、具体的に「朝ごはんを食べますか」「だれと食べますか」などストレートに聞くものが多いですが、保護者向けの設問は「あなたは、子どもを育てている現在の生活に満足していますか」など非常に抽象的です。保護者向けの方も、例えば「あなたは子育て中大体何時間寝ていましたか」「夫と1日何回会話できましたか」「体が疲れているときに、かわって見てくれる人がいましたか」など、もう少し具体的なことを聞かないと、具体的な施策につながっていかないと感じます。

(屋代委員) 市民意識調査の中で、「人生の選択肢として、結婚しないという選択についてどのように思いますか」「子どもを持たないという生き方についてどう思いますか」という2つについて、「理解できる」から「理解できない」の5段階評価で聞いていますが、結婚や出産・子育ては、簡単に理解できる・できないで判断できるものではないと感じています。

また、結婚のよい点として「社会的信用を得る」とありますが、行政が行なうアンケートで「結婚しないということは社会的信用がないということだ」というような誤った価値観を生み出すような選択肢は避けたほうがよいと思います。

(事務局) まず、なぜこの設問を設けているのかをご説明します。少子化の原因として非婚化・晩婚化があげられており、結婚しない理由として、結婚に関する社会の意識の変化があるといわれていますが、この実態について把握している調査等がないため、今回聞こうとしているものです。子どもを持たないという選択についても同じ趣旨です。ただし、いずれにしても本人の意思によるものですので聞き方を工夫したいと思います。

(高橋会長) 「社会的信用を得る」という選択肢については、そういう価値観が依然としてありますので、選択肢としてはあってもよいと思います。

(藤川委員) 市民意識調査の中で、未婚の方に「結婚していないのはどのような理由でしょうか」と聞いていますが、20歳前後の若い人が答えやすいよう「若いから、学生だから」などの選択肢があればよいと思います。

(高橋会長) 本日の意見をふまえ、事務局でもう一度検討をお願いします。委員の皆さまから、追加で意見があれば、後日事務局まで直接お伝えください。なお、調査票の確定につきましては委員長、副委員長に一任させていただくということでよろしいでしょうか。

では、本日はこれで閉会します。

資料

- 1 次第
- 2 ニーズ調査の概要
- 3 調査票 (案)
  - ・ 子育て支援に関するニーズ調査 (未就学児保護者)
  - ・ 子育て支援に関するニーズ調査 (小学生保護者)
  - ・ 小学生基本調査
  - ・ 中高校生基本調査
  - ・ 次世代育成支援に関する市民意識調査